

平成31年度 行政評価事業別シート

	実計対象	<input checked="" type="checkbox"/>	評価対象	<input checked="" type="checkbox"/>	新規	<input type="checkbox"/>	完了事業	<input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業	<input type="checkbox"/>	担当者	小林 貴彦
	全体計画	平成26年度 ~ 平成28年度		経費区分	実施計画事業費		内線	3522				
事務事業名	4227 蔵の町並みキャンパス運営助成事業											
所 属	200200 まちづくり推進部・まちづくり課											
施 策	07023900 特色をいかした地域振興の推進											
予算科目	会計	01 一般会計										
	科目	080401 土木費・都市計画費・都市計画総務費										
	事業	040000 蔵の町並みキャンパス運営助成事業										
事業目的						事業概要・効果						
歴史と文化の遺産である蔵造り等の建物を活用し、キャンパスとして学生が研究・交流する中で、21世紀を担う知の創出と情報発信を行う。また、新たな研究・教育機能を持った都市づくりを産・学・官・民の協働により行う。						歴史と文化の集積である蔵造の建物等を学生の研究や授業の場として活用し、その成果を発信し、文化・産業遺産として次世代へ継承するとともに、産・学・官・民の協働による新たな研究機能をもった都市づくりを行う。						

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
7校9学部（学科） 1,300人	6校8学部（学科） 1,300人
平成29年度 実績	平成30年度 実績
6校8学部（学科） 1,200人	6校8学部（学科） 1,300人
平成31年度 予定	令和2年度 予定
7校9学部（学科） 1,300人	7校9学部（学科） 1,300人

指標名	蔵の町並みキャンパス年間延べ参加者数				
算式	年間延べ参加者数				
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
目標値	目標				
	実績				
指標選定の理由	須坂市の歴史的資産、資源を活用した蔵の町並みキャンパスにより、地域振興を図るため。				
最終年度 目標の根拠	参加大学の学生数（過去の実績を基に算定）				
指標名					
算式					
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
目標値	目標		1,300	1,300	1,300
	実績		1,300		
指標選定の理由					
最終年度 目標の根拠					
指標名					
算式					
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
目標値	目標				
	実績				
指標選定の理由					
最終年度 目標の根拠					

事業費

(単位：千円)

		平成30年度 決 算	平成31年度 予 算
事業費		900	900
特定 財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	0	0
一般財源		900	900
人員数 (人)	正規職員	0.4	0.4
	嘱託職員	0.5	0.5
	臨時職員	0.0	0.0
人員 コスト	正規職員	2,860.0	2,860.0
	嘱託職員	1,437.5	1,437.5
	臨時職員	0.0	0.0
	計	4,297.5	4,297.5
市民一人当たりの経費		0.1	0.1
総額		5,197.5	5,197.5

(単位：千円)

平成30年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	0	
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	900	蔵の町並みキャンパス事業負担金900
その他	0	

(単位：千円)

平成31年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	0	
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	900	蔵の町並みキャンパス事業負担金900
その他	0	

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	高い
評価コメント	須坂市全体ををキャンパスとして大学生等が研究・交流を行うことにより、賑わいの創出の一助となっている。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	有効
評価コメント	事業を実施することにより、他市町村に居住する学生たちが須坂を深く知ってもらう良い機会となっている。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	変わらない
評価コメント	できる限り予算の縮減に努めている。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

事業を実施することにより、須坂のPRや賑わいの創出につながっている。各大学の事業を市民に分かる形で還元することが課題となっている。

ACTION

1次評価

2次評価

次年度以降の方向性	簡易な改善（拡大）	次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント		2次評価コメント	
各大学の取組みがより須坂市民のためになるように検討を進める必要がある。		継続して大学の取組みを支援し、まちづくり等に生かしていく必要がある。	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	